

生徒会活動、部活動、学習発表等

自分たちの
手で楽しもう、
栃高ライフ！

栃尾高校では、様々な
特色ある活動を行っています。

高校では、どんな活動をしているのかな？
先輩たちの苦労話や思い出話を
聞いてみましょう。



1

「まず、自分のできることをしよう」

生徒会長 井良沢 優人(いらざわ ゆうと)

新入生、そして後輩の皆さん。何かをする時に無理をしてでもやろうとしていませんか。一人の力には限界があります。自分の力だけで何とかしようと無理をすると良いことなど一つもありません、失敗します。難しそうなのは一人で抱え込まずに、仲間と協力して乗り越えていくのが一番だと私の体験からアドバイスします。

私は、1年次はクラスの級長、2年次は生徒会の一員、3年次は生徒会長を体験しました。そうした役に選ばれたのは、私の能力が特に優れていたからというわけではありません。入学してすぐ軽い気持ちでクラスの級長に立候補したことが全てのはじまりでした。そこから、先生に生徒会に入らないかと誘われ、先輩と楽しく、充実した生徒会活動をしていたら、いつの間にか生徒会長になっていました。とにかく周囲の協力があって、こんな私でもなんとか生徒会長という大役を果たすことができました。3年間の体験から、周囲の協力と、日頃の小さな積み重ねが、いつの間にか大きな変化や自分自身の成長につながっていくのだと、私は理解しました。まさに「百聞は一見にしかず」。体験したことだから本当によく分かります。

今の世の中は人間関係が希薄になり、とても生きにくい時代と言われています。情報化の進展で様々な情報があふれ、そして、その全てが真実というわけではない。何を信じていいのか、人とどんな関係を結べばいいのか、なかなか難しい時代だと思います。けれども、私は、これからも無理はせず、自分ができることを少しずつやり、周囲の友だちの助けを借りながら、頑張っていきたいと思っています。皆さんも仲間を大切にしてください。そして、自分のできることをやってみましょう。きっと、これから素敵な高校生活や未来が皆さんののもとにも訪れると思います。



2

「伝えたいこと」

弓道部部长 馬場 夕斗(ばば せきと)

私は3年間、弓道部に所属し活動してきました。私が1年次の頃、栃尾高校弓道部は県内の大会でいつも最下位で、部内の空気も最悪でした。

私は「この部を変えたい」と思い、立ち上がりました。部長となってまず変えたのは、雰囲気です。以前のダラダラとした、いかにも最弱感の漂う雰囲気を、ピリピリとしたやる気の溢れる雰囲気に変え、練習時間を有効に使えるように心掛けました。変えたのはそれだけ、単純なことでしたが、弓道部の強さは大きく変わりました。県内大会では、ベスト8に入り、私自身も県代表に選出され、国体にも出場することができました。

私がここで伝えたいことは、何かを変えようと思ったときに少しずつでもいいので、やってみるということです。きっと成功につながると思います。部活動での努力が、自分自身の将来にも生かされると思います。

3

「クロスフェス(全国大会・学習成果発表)で学んだこと」

ビジネス・情報系列 多田 悠莉亜(ただ ゆりあ)

私は3年間、栃尾高校で様々な経験をすることができました。その中で一番印象に残ったことは、3年次に参加した「全国産業教育フェア 2019 新潟大会・クロスフェス新潟」です。

最初は、人前に出ることが得意ではないので、あまり参加したいとは思いませんでした。しかし、友人と話し合い、高校生活最後に何か挑戦してみようという意見となり、参加することを決めました。練習中は、時間内に噛まずに台本の台詞を読むことをとにかく意識しました。しかし、本番の会場(朱鷺メッセ)で迎えた前日練習では、学校ではなかった照明や音響が入り、スタッフさんとのタイミングがなかなか合わず、本番に対して不安になってしまいました。それでも、本番がくると、苦戦していたスタッフさんとのタイミングもピタリと合って、一緒に参加していたモデルやダンサーの人たちの頑張り先生方のサポートもあって、見事に成功させることができました。

私はクロスフェスに参加したことで、一つのものを作るには大勢の人が協力し合うことが大切だと学びました。「自分には向いていない」という理由で挑戦せずに終わるのではなく、小さなことでも積み重ねていくことで自分の経験になるので、どんなことにも積極的に挑戦してほしいと思います。



弓道部国体会場にて



クロスフェス新潟にて